



新学期に思う

教育長 白 杵 國 男

新1年生の黄色い帽子を見ると、初々しさを感じます。桜の花と共に春の風物詩です。

JR車内清掃班の人達が、赤いユニホーム姿で短時間にきびきびとした動作で仕事を終え、終わった後ホームに整列し一礼して、並んで階段を降りて行きました。節度のある無駄の無い動作が爽やかにも見えました。礼節の中に美学があるように思いました。

新学期が始まりました。学校生活は「おはよう」の挨拶で始まり「さようなら」の挨拶で終わります。授業が一礼で始まり一礼で終わります。清掃も整列し一礼で始まり一礼で終わります。教務室の出入りも、出入り口で一礼します。教師机の脇で一礼して用件を足します。学校生活の中には、節度のある場面があります。礼節は教育の不易の部分であると思います。

「笑顔」・・・人の一番美しい表情は笑顔であると思います。学校生活の中に笑顔絶やさないでほしいと願います。笑顔は無条件に受け入れると言う表情のサインです。笑顔は心に安心感を与え、温かく包んでくれるように思います。子ども達に笑顔で話しかけてもらいたい。笑顔で挨拶を交わしてください。

目と目が合うとき、言葉は無くとも笑顔伝えていただきたい。先生方が笑顔で子ども達に接するとき、子ども達は心を開き、生き生きと活動し、反応してくるようになります。

時に厳しく注意しても、最後は笑顔で「また頑張ろう」と一声掛けてやれば、心は繋がると思います。学校生活の中で、笑顔を大事にしてほしいと思います。先生方がもっと笑顔で表情豊かになっていただきたいと思ひます。

大震災に「さらなる心の教育を」

佐渡総合教育センター所長 宮川 安 則

この惨禍は、人類が経験したことのない、まさに未曾有の大災害です。巨大地震と巨大津波、そして、想定外の原発事故と放射能漏れ、その後の計画停電、物不足等三重四重に、今なお日本列島を苦しめています。

海外メディアは、日本人の秩序正しさや高潔感を報じていましたが、私は日本人としてそのことを誇りに思い、心底嬉しく思いました。

各避難所では、行政機能を失った地区もあり、ボランティアの受け入れ体制も整っていなかったが、そんな中を物資の運搬に頑張ったのが、被害に遭った地元の中学生であり、高校生であったとのこと。教育関係者の私もそれらの報道に接して、胸が熱くなり、思わず「がんばれ！ありがとうございます！」と叫んでしまいました。

私は、かねてから「知・徳・体、バランスのとれた教育を」と訴えてきましたが、それはいつの時代になっても変わらない不易の原理です。

しかし、今回の大震災を経験して、人の絆、協力、支え合い、思いやりの大切さを身にしみて感じました。そして、「徳育」心の教育の一層の充実を、日本の教育の最重点課題として掲げ、総力を結集して推進していかなければならないと強く思ったのです。

我が新潟県には、いじめ対策としての「深めよう絆 県民運動」という素晴らしいキャッチコピーがあります。この1ヶ月間の被災地への救援・支援の報道を見聞きするにつけ、今や「深めよう絆 日本国民運動」にまで広がっています。

年度初めに当たり、改めて人との関わり、地域のまとめ、家族の絆等を真剣に見つめ直す機会にしたいと、痛切に思ったのでした。

地域とともに歩む特色ある学校づくり

管理主事 羽二生 裕

島内の桜が満開となり、島に躍動感を感じる季節となりました。各学校では新たな職員を迎え、順調に今年度の教育活動を始動させていることと思います。

いつの時代においても学校は子どもたちの教育活動を通し、地域と結びつき保護者や地域の人々とともに歩んできました。学校には、地域との行事や連携・協力等を通し、地域との結びつきを一層深めるとともに、郷土への愛着や未来を切り拓く確かな学力等を育てていくことが期待されています。

県教育委員会では、昨年度に引き続き「地域とともに歩む特色ある学校づくり」を、学校教育推進の中核に掲げています。その際の重点事項として、以下の4点をあげています。

- (1) 全校体制で取り組む学力向上
- (2) 豊かな人間性と社会性を育む
教育の推進
- (3) たくましく生きるための体力向上
- (4) 全校体制で取り組む
特別支援教育の充実

各学校ではそれぞれの事項について、児童生徒の実態を全職員で把握し、課題解決のための具体策を十分検討し、子どもたちの課題解決のための取組を全校体制で、また家庭や地域の協力を得て全面的に推進してください。

なお、これら4つの重点事項を各学校で取り組む際、以下の2点をポイントにしてください。

- 共通認識の上に立った、全校体制による組織的な取組
- 各中学校区の学校間の連携、家庭や地域との連携による取組

生徒指導の一層の充実と児童生徒の事故報告についてのお願い

教育指導主事 濱 田 毅

「平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の管内の調査結果がまとまりました。

いろいろ課題はありますが、年度当初から懸念を抱いていた不登校が大幅に増え、74名(小12・中62)にのぼりました。70名を越える数は近年にはありません。中学校で新たな不登校が30人となるなど、不登校児童生徒の対応は喫緊の大きな課題であると捉えています。

いじめ問題も前年度比4件の増となりました。ほとんどは、解消されていますが、中には長期化、深刻化しているものもあります。いじめも不登校も初期対応が大事であることは言うまでもありません。悩み苦しんでいる児童生徒が目前にいるということを再認識し、生徒指導の一層の充実を願うところです。

次に事故報告についてのお願いです。事故報告については、4月1日付け佐教学第4号の通知の通りですので、熟読の上、間違いのない対応をお願いします。例年、児童生徒に関する報告が管理主事宛にあったり、報告書の形式が違っていたり、必要事項が明記されていなかったり等々、不必要な時間を費やす学校も少なからずみられます。不明な点は、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

職員の異動のお知らせ

佐渡市教育委員会学校教育課では、今年度指導部門で1名の異動がありました。よろしくをお願いします。

〈 退職 〉

○ 指導主事 川上 治 男
佐渡市立行谷小学校長へ

〈 新任 〉

○ 指導主事 香 遠 正 浩
佐渡市立河原田小学校教頭より